

を離れ、其安心の點を金額以上に越むるもと想はるゝもの
が如し。其心は之を如何せんと云ふに従らに金額
に依りて、其額を離れれば、其より離れる所に非ず、獨立の生活を以てす
て立身の大本とする反對、云々までもなきもとして同時
に文部省の門に入らひぬ、精神無形共に眞理原則の所在
を示して、自縛は、萬物に導くの一法あるのみなれど、此
事間葉音の事は少年に達するも中年以上の輩に説く可
能に於て、何が好ひ所、信ずる所のものあるの、獨東なる
が故に其天賦に従ひ、體質に樂するときは、中年以上故者
が如し。自から一體の方便として見る可きものなり。例へば、不學無術と稱する人にして、器識と好む者あり。又は宗教
の人にも、心靈の開發と謀るふと必ずしも難からざる
寄せ耳目と觀くるは、人生の常なれば、其道筋より知らず
聞らずして、進歩の法ある可し。器識の用法と機関して、次
第くに物理の範囲に入り遂に實事の味と味ひ、宗教
に於ける器識の味と聞き、深く深入すれば、思はず知らずし
て、體質の妙と妙みに至りしが如き。世間に其事例少なか
らず、門れど心事と高尚にするの道にして、且又萬信心好
事は、國から朋友を得るの媒介と爲り、國もナして大に利
する事ともわる可し。在れば、守の高潔貴雅來として、其財
産、國の富を積和して、安否の話と實向山上に置き、精神上
形の慰藉をしましらんとするには、正式の教育と云
はべども、其天賦の如きより自然に進むの進むるを知る可
し。而するは、精神的器識の有能御見のみ

元說

元文

元

1

1

四

三

七

卷六

१

三

四九

六
四

10

を離れ、其安心の點を金銭以上に感ひる點と想はるゝもの
が多し。されば之を如何せんと云ふに従うに金銭
に依存せば、是より脱する所に非ず、獨立の生活を以
て立命の大本とするは云々までもなき。とにして同時
に文部省の門に入らひぬ、有形無形共に眞理原則の所在
を示して、自らは高貴に導くの一法あるのみなれど、此
事開業の事は少年に達するも中年以上の輩に説く可
らず、苦だ當直の次第なり。依て、痛に我輩の所見を以てす
れば、凡そ人間は生來の教育如何に論なく其天賦又は習
慣に於て何か好ひ所、信ずる所のものあるの爲め、東なる
が故に其天賦に従ひ、實に樂するときは中年以上故老
の人にも、心地の快楽と諒るふと必ずしも難からざる
が如し。自から一端の方便として見る可きものなり。例へ
ば不學無術と稱する人にして、讀書と好む者あり、又は宗
教を信する者あり、其他百般の遊戯好事、何か之に心を
寄せ耳目を傾くるは、人生の常なれば其道筋より知らず
に、其道筋の味と聞さざく深入すれば、思はず知らずし
て、謙らしくして進歩の出ある可し。書籍の用法と實用して、次
第くに物理の世界に入り遂に萬物の味を味ひ、宗教
から離れても心事と高尚にするの道にして且又其信心好
きは、昔から朋友を得るの媒介と爲り、謙らしくして大に利
する点もある可し。在れば今、の富翁貴族をして其財
産を失ひ、或和して安樂の點を實現する上に置き、精神上無
形の富を求める所とするには、實に正式の教育と云
はずとも莫天窟である。眞に進むの道あるを知る可
し。而して、眞に進むの道あるを知る可

して機動性、火力の大なると共に攻防の動力も亦強本
を加へて劣等の主戰艦と相對しては殆んど相匹敵し得
るもの。望あるに至りたれば艦數に暨ならざる自下の海軍
に是種の軍艦を備ふるとさば戰時に於ては艦隊の勢力が
を加ふるみど大なると同時に平時には國有の任務と成
さしむるを得て經濟の點に於て益するみど一方ならざ
る可し而して更らに平時警備の點より見るも新領地の
臺灣を始めとして朝鮮文那南洋諸島の巡邏は勿論、近
畿に開けたるに就ては此方面の制空と制海する為めに
も軍艦派遣の必要ある可し所謂清軍本時の任務は今後
ます／＼繁多を告ぐるに至るみど必然なれば装甲弁に
一等巡洋艦の補助と共に駆逐艦なる各種の多數を置
ふるは目下の急務なりと云ふ可し之を要するに巡洋艦の
方針なるものは其國の海軍政策と諧る可らざる關係を
有する者にして英國の如き他邦のノルスヴルーカ型
が海軍大臣たりし時に確定實行したる方針は英國は固
合二強圏に於て製造する一艦に對するに二艦を以てす
可らず割合にて新造し以て敵と競争す可しとの主義によ
て又デーリー・ニュース（自由黨の機関新聞）の如きも同
合數圖の一に於て一隻の主戰艦を新造する時は或る亦
間じく其一隻を造り彼に於て一隻の副伴艦と繋らば我
は更に其二隻を造らざる可らずと主張したる左れば英
は機略の同盟に對するの目的にて新造するに對するの
攻擊艦隊を備へ又佛は地中海艦隊に對するアルテック艦
隊これの／＼其全力を生で一方こゝれを以て一方こ

第五十一 次第に難しく、遠雷の轟くを、事早くも現れヤと定め難く、遙雷の轟くを、事早くも現れ行き、されば捕はれ、されば逃げ、はれて因半の一族の長なる人、鄭煥千餘今宵の内には逃る程に、前屋佐羅の岐じ、今にも天覆らんかどまる。計りなし中に、我子助助けんと、押根つて走せ本筋、小太郎義盛が具した

者
九十八
さき鳴の
けば節
しもむ
らうむ
現御
御御
加減と
一門に
かれ、
豪傑大
眞具し